第3回 日本「住みたい田舎」ベストランキング

大田市が総合第1位を受賞

㈱宝島社が発行している月刊誌「田舎暮らしの本」の中で実施されている『日本「住みたい田舎」ベストランキング』で大田市が総合第１位を獲得しました。それにともない、平成26年12月には「田舎暮らしの本」編集部編集長の柳順一氏が市役所を訪問、市長に楯が贈呈されました。

このランキングは平成24年度から実施されており、今回が３回目となります。今年度は、全国約５００の自治体に対し、「移住するうえで魅力的な田舎」に関する項目（移住者歓迎度、移住者支援制度の充実度、子育てのしやすさ、災害リスクなど10項目）を同社が調査（２９５自治体が回答）し、大田市が総合第１位となったものです。

また、部門別のランキングでも子育て世代にぴったりな田舎部門第２位、シニア世代が暮らしやすい田舎部門第１位、古きよき日本の田舎部門第３位、チャレンジしたい若者におすすめの田舎部門第４位となりました。

▶「田舎暮らしの本（2月号）」でベストランキングが発表されました。

「田舎暮らしの本」を読んで 大阪市から－ターン 武田明美さん

武田さんと兄の宇留島さんは「田舎暮らしの本」に、市の空き家情報が掲載されたことがきっかけで、大田市に興味を持ち、現在の住居を購入、平成25年４月に移住しました。

60歳を契機に田舎暮らしを計画していたこともあり、築１００年超の古民家を改修し田舎ツーリズムの宿に登録、「甍（いらか）のギャラリー馬路」を開設しました。

大阪で「お好み焼屋」を経営していたことから、地域の要望もあって飲食も提供しています。

移住後、市が開催している「農援塾」を受講。宿で提供される野菜は全て自家製というこだわりぶりです。

▶古民家を改修した「甍のギャラリー馬路」は地域の憩いの場となっています。

市内外の利用者との交流活動を通じ、大田市の情報発信の拠点ともなっている施設です。

▲武田さん（右）と兄の宇留島さん（左）。

大田市の魅力に心奪われて

大田市への移住の理由を聞くと、「人と場所に惹かれたから」と迷うことなく答える武田さん。移住の前に大田市を訪れた時に、町を歩く子ども連れの親子や高齢者まで、見知らぬ自分にあいさつをしてくれることが、驚きだったそうです。

大田市の魅力に取りつかれた武田さんは、今後について「この地域の人の結びつきを強くするため、催し物などをして地域を盛り上げていきたい」と熱く語っています。

日本の拠点を大田へ
画家　寺田　琳さん

市外出身の寺田さんは、19歳で日本画を始め、2000年にドイツへ渡り、現在は抽象画を中心に活動している画家です。

日本での活動拠点を探していた寺田さんは、知人の紹介で大田市の運営する「空き家バンク制度」を利用しました。そこで出会ったのが波根町にある製菓工場として使われていた空き家です。

昨年8月、自ら空き家を改築し、「ミュージアム竹下成果工場」が開館しました。ここでは、絵画の展覧会や写真展、音楽イベントなど様々な催しが行われています。寺田さんは、ここが芸術文化を発信する場となることを目指しています。

開館と同時に行われたアート・イベントの優秀アーティスト23名の作品は、ベルリンにある寺田さんのギャラリーに展示されました。また、このイベントには、海外からの出展もあり、ミュージアムは、芸術文化の発信場所となっています。

何もない所が良い

「大田市は何もない所が良い」と語る寺田さん。芸術家にとって、決まった美しさで固まっている土地よりも、大田市のような何もないシンプルな土地というのは、のびのびと自由な表現ができるそうです。実際に、ミュージアム竹下成果工場は、建物全体が寺田さんの一つの作品となっており、寺田さんの思い描くとおりの作品となっています。

今後も、ミュージアム竹下成果工場から寺田さんの思い描く芸術が世界へ発信されていくでしょう。

▲開館と同時に開かれたアート・イベントの様子。国内外から約300点の作品の出展がありました。

山村留学の活動が決め手に
山田一夫さん一家

平成21年4月に千葉県から大田市山口町へ移住（Iターン）した山田さん一家。

田舎への移住計画を進めるなかで、島根県が主催する定住相談会へ参加しました。職員の対応の良さに島根県への興味が湧き、島根県全域を見て回ったそうです。

移住の大きな決め手となったのは、子どもが安心して遊べる環境があり、山村留学センターがある大田市でした。

▶右から山田一夫さん、長女の桂香さん、妻のみどりさん、二女の千里さん。

田舎には大切なエネルギー源がある

この山村留学センターの活動の一つに農家での生活や体験を通して、昔の伝統や智恵を学ぶことが、子どもへの刺激になるし、子どもにとって良い環境がここにあったそうです。

現在は、自営農業で一年中大忙しの山田さん。「自然がいっぱいの三瓶山の麓で作物を生産する農業は楽しい」と、いつも笑顔で、雪の中でも元気いっぱいです。

妻のみどりさんは、「田舎という環境に価値があり、人が生きて行くうえで大切なエネルギー源がある」と夫の一夫さんを支えながら、子育てに奮闘中です。

また、山田さん一家の住まいのある山口町の地域の皆さんが元気で、一緒に活動しても元気を貰い、やる気になるらしく、「田舎暮らしの選択は間違いなかった」と日々の暮らしを満喫しています。

▲雪の中で育つ自然薯（じねんじょ）の生育状態を確認する山田さん。